



聖路加

チャペル ニュース

2021年6月27日 No.262



〒104-0044

東京都中央区明石町10-1
聖路加国際大学礼拝堂

TEL 5550-2416

TEL 5550-7043

FAX 5550-7070

E-mail: chapel@luke.ac.jp

URL: [http://nssk.org/
tokyo/church/luke](http://nssk.org/tokyo/church/luke)



チャプレン集合写真

聖書に学ぶ会

リモート (Zoom) で行っています。

第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書 (上田司祭)

第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書 (関司祭)

ご関心のある方は、チャペルにお問い合わせください。

巻頭メッセージ

聖霊降臨のときを 生きる教会

礼拝案内

月・火・木・金曜日

■午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

水曜日

■午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

※第2水曜、第3火曜、第3水曜の礼拝は午前8時45分～

日曜日

新型コロナウイルス感染症のため、日本聖公会東京教区では公祷を休止していますが、日曜日10時半より、旧館チャペルにて簡単なお祈りをしています。また、次の礼拝は引き続き執り行います：

■午前7時 聖餐式 トイスラーホール

巻頭メッセージ

聖霊降臨のときを生きる教会

司祭 バルナバ 関 正勝

さる五月二十三日、教会は聖霊降臨の日を迎えて、この地上に新しい歩みを始めた日の出来事を記念しました。しかし、今年の記念日もコロナ禍にあつて共に集い、共に祈り、喜びを分かち合うことは出来ずオンラインでなされました。(わたしはパソコンの不手際で参加さえできませんでした。)例年この日の礼拝堂は聖霊を象徴するかの様に赤い布で一面(華やかに)飾られていたように思います。懐かしく思い起しています。最初の教会が誕生したとき弟子たちは、自分たちが信じていた主を十字架に追いやった世界や社会を恐れて一か所に集まっています。外の世界を恐れて内に閉じこもる姿は、なんだかわたしたちの姿に、いやわたし自身の現状に重なってしまいます。外の時間だけが無表情に自分の体を通していくようで、怠惰な自分は無力感と共に焦燥感にかられることがあります。

先日一人の信仰の友の便りにご自分の喜寿を記念して手動の時計を買われた経験が記されています。その時計は手動ですから日々忘れないでねじを巻かないと時間に狂いが生じてしまう。この現象は自分たちの日常への示唆が含まれてはいないか?といったお便りでした。わたしも全く同感です。すべてがオートマテックに動いている社会にあつて自分の手足を動かさなくては(父である神に願ひ求め続けなければ)誤差が生じてしまう現実があるということに違いありません。イエスは世を去るに際して父に「別の弁護者を遣わして、永遠にあなた方と一緒にいるようにしてください。」と聖霊の約束をしてくださいました。その約束が「巣籠状態」の彼らを立ち上がらせてイエスの救いの出来事を当時のすべての世界に通じる、「人々が自分のこととして」聞けるように語ったのでした。(弟子たちが「多言語」を語れたというわけではないでしょう。)彼ら自身が新しい信仰、大いなる神の新しい名、父なる創造者・贖い主・聖霊なる弁護者なる神、すなわちわたしたちの救いと世界の完成のために万全を尽くして働かれている神その名は三位一体であることに出会えたのでした。